平成　22　年度　　事務事業に関する点検・評価シート　　事業番号　1-2-1

事業名	確かな学力の向上を目指す教育の推進

評価実施者		
	所　属	教育支援課
	職・氏名	課長　吉川　修

主要事業の概要		
開始年度		根拠法令等
実施方法	■ 直接　□ 委託	特定財源　□ 一般財源　□ 補助金等　□ 負担金
目　的	児童・生徒に基礎基本を確実に定着させ、個に応じたきめ細かな学習指導の取り組みを推進する。	
事業内容	①少人数指導(T・T)の実践を通じて指導方法の工夫改善に取り組んだ。 ②少人数学級実践事業(小1年～4年生・中1年生　35人学級)と学校サポート事業(学びサポーター配置)を通じて、個別の児童生徒への学習指導と支援を行った。 ③標準学力検査や全国学力状況調査を実施し、学力の実態の把握と学習指導の改善向上を図った。	

事業費	区　分	19 年度	20 年度	21 年度	22 年度	23 年度	特 記 事 項
	事業費(千円)	6,500	6,500	11,800	21,800	26,500	標準学力検査経費、市単独少人数学級教員配置、学びサポーター配置
	うち一般財源	6,500	6,500	11,800	21,800	26,500	

目標と実績	区　分		単位	H19	H20	H21	H22	H23	実績の評価
1	学テ算数A正答率全国対比	目標					96		○小学校の全国を100とした比率 目標は、前年以上と設定。
		実績	p	92	92	96	91		
2	学テ算数A 標準偏差の全国値	目標							
		実績	p	3.4	3.7	3.4	4.0		
3	本市の学テ算数A標準偏差	目標					0		
		実績	p	3.7	4.1	3.5	4.3		○偏差値ポイントの上昇の解消が課題
4	将来の夢や目標がある中学生	目標					70		○あると答えた比率
		実績	%	65	68	67	64		

評価項目		点数	判定及び説明・考察	
1	必要性	10	市民ニーズや社会情勢に適合しているか	■ 5　□ 4　□ 3　□ 2　□ 1
			実施主体は適切か(民間、国・道が実施すべき事業ではないか)	■ 5　□ 4　□ 3　□ 2　□ 1
			学力の向上や学ぶ目的と将来の夢を持つなどの定着は、保護者の大きな願いであることから、前年以上の目標設定とした。	
2	有効性	7	目的に照らして効果的な手法であるか	□ 5　■ 4　□ 3　□ 2　□ 1
			成果が十分に上がっているか	□ 5　□ 4　■ 3　□ 2　□ 1
			事業の成果が学力の結果に表れていないことから、教科の指導方法の改善が必要である。	
3	効率性	4	費用と成果のバランスは適正か	□ 5　■ 4　□ 3　□ 2　□ 1
			35人学級については、きめ細かな指導をとおして、子どもたちの発表の機会が増えるとともに、先生と向き合う場面が増え、個に応じた指導の充実を図ることができた。	

総合評価				事業の今後の方向性
合計 ↓	21 /25	ランク (A～E)		学力向上プランに掲げた学習課題の改善に向け、効果的な施策や教職員の研修機会の充実が必要である。特に標準偏差ポイントの減少対策として、習熟度別指導など指導方法の改善を行い、学力の底上げが必要である。
100点換算	84 /100	B		□ 拡充　□ 縮小・統廃合　■ 質的向上　□ ｽﾋﾟｰﾄﾞｱｯﾌﾟ　□ 検証　□ 現状維持

【評価点数】
5 ： 十分できている　4 ： できている　3 ： ほぼできている　2 ： あまりできていない　1 ： できていない

【総合評価ランク】
A ： 86点以上　優れた取組が多く、十分に成果が上がっている
B ： 71～85点　優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている
C ： 56～70点　一定の成果は上がっているが課題もあり、更なる取組によって上位を目指すことが必要である
D ： 41～55点　成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多く、更なる改善が必要である
E ： 40点以下　成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要である

◎外部評価委員の評価・意見等

評価項目		点数	判　定		点検・評価に関するコメント
1	必要性	10	①	■ 5　□ 4　□ 3　□ 2　□ 1	・少人数に分けて教えることは良い
			②	■ 5　□ 4　□ 3　□ 2　□ 1	・十分に成果が出るようにして頂きたい
2	有効性	7	③	□ 5　■ 4　□ 3　□ 2　□ 1	・子どもに夢を持たせるような指導が必要
			④	□ 5　□ 4　■ 3　□ 2　□ 1	
3	効率性	4	⑤	□ 5　■ 4　□ 3　□ 2　□ 1	
		合計	21 /25	100点換算 84 /100　ランク B	